



ボランティア OSAKA



バリアフリーコンサート



第32号

2003
SPRING

●発行●
府社会福祉協議会
ニア・市民活動センター

特集

学生のボランティア、
若者たちのボランティアは今…

●市町村ボラ連 Vサイン No.21

禁
帯
出

バリアフリーコンサート

障害のある人もない人も、 大人も子どもも、 みんな一緒に生なまの音楽を楽しむ

子どもたちや、知的障害を持つ人たちにもクラシック音楽を楽しんでもらおう…とピアノリストの石原光世さん（36歳）らが始めたバリアフリーコンサート。その第10回目の催しが3月2日、茨木市市民会館（ユ・アイホール）で開催されました。

10回目の記念コンサートとあって、この日は石原さんの母校・大阪音楽大学管弦楽団も出演。行進曲「威風堂々」やオペラ「カルメン」など、会場の参加者は質の高いクラシック音楽を堪能しました。

ピアノ教室で知的障害児を何人も教えてきた経験を持つ石原さんは、こう語ります。

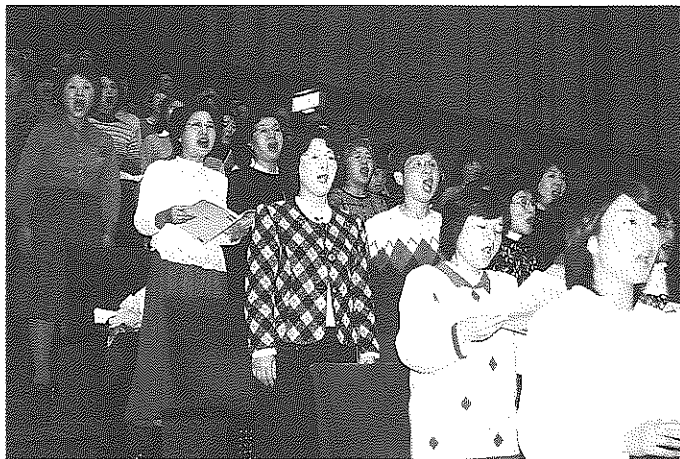
「一般にクラシックコンサートでは、客席が騒がしくなると困るといった理由から、就学前の子どもの入場を断ったり、また感情表現がストレートな知的障害児の親が、遠慮して出かけることをあきらめたり…といったケースがあります。でも、芸術は限られた人だけのものではありません。そこで、たとえ声をあげても、気兼ねせずクラシックを楽しめる演奏会を…と思い、1999年からこのコンサートを始め

ました」。

といっても、第一級のクラシックを観賞してもらうのが目的ですから、入場料はきちんと取ります。しかし障害者が一か月作業所で働いても、手にするお金は決して多くはありません。そこで「入場料はギリギリまで格安にし、純益は福祉団体を通じて障害者の自立支援のために寄付」しているそうです。

この日も、会場には障害者の姿が多く見られました。舞台と客席が一体となって「うれしいひなまつり」を手話を交えて合唱したときは、雰囲気も最高潮。そこには「心のバリア」など、どこにもありません。全員で歌い終えたときには感動の大拍手が巻き起こりました。

そしてフィナーレは、ベートーベン第九交響曲。舞台と、会場に陣取った市民合唱団の力強い歌声に、いつしか熱いものが込み上げてきます。この感動的なコンサートがこれからも回を重ね、ますます大きな輪となって広がっていくことを願わずにおれません。



フィナーレでは、会場に陣取った市民合唱団も参加して第九を大合唱

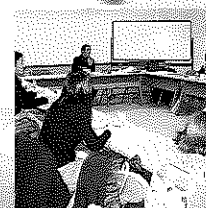
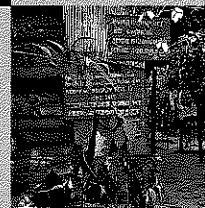


大阪音大非常勤講師
でもある石原光世さん



出演者も客席におりたち、
会場は文字通りバリアフリーに

学生のボランティア、 若者たちのボランティアは今……



阪神淡路大震災をきっかけに、わが国でも多くの学生、若者がボランティアに参加するようになりました。そしていま、小・中・高の学校現場では「総合的学習」、「福祉教育」、「体験学習」が積極的に取り組まれ、大学においてはボランティアセンターの設置や、ボランティア関連講座を開講するなどの動きが活発化。ボランティアは日増しに学生や生徒にとって身近なものとなりつつあるようです。青少年白書では「ボランティアへの参加は積極的に他者や社会と関わることを通じ、自己の確立や豊かな人間性を育む」とし、「人格形成期にある青少年にとってきわめて大きな意義を有する」と記されています。

白書を持ち出すまでもなく、若い人たちにとってのボランティア活動は、「世の中にはさまざまな人がいて、いろいろな生き方がある」ということを知る上で、まさに格好の教育プログラムと言えるかもしれません。そしてそれは、ノーマライゼーションを理解し、人権感覚と社会的弱者への連帯感を培い、若者自身の「生きる力」を大いに育む活動であると言ってもいいでしょう。

そこで今回の特集は、「学生たちのボランティア、若者たちのボランティアは今……」。瑞々しい感性を発揮しながら、多彩な活動を展開する7つの団体を取材しました。

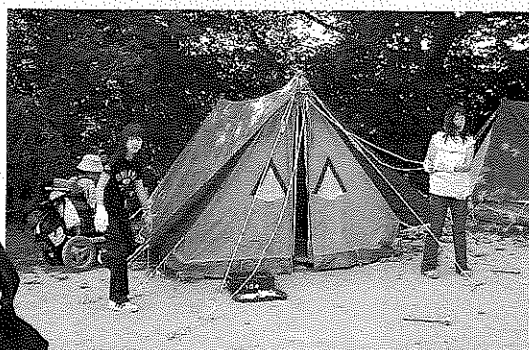
地域で活躍する 中高生のボランティアグループ



ボランティアグループ 「新星」

●連絡先
東大阪市社会福祉協議会
ボランティアセンター
東大阪市高井田元町1-2-13
TEL (06) 6789-5550
FAX (06) 6789-5611

毎年恒例、夏のワークキャンプ。これをきっかけに入ってくるメンバーも少なくありません



後列右から、会長の岸田友里さん、林優希さん、古川真美さん、北ヶ崎圭亮さん。前列右から、塚本菜奈美さん、岸田友見さん、副会長の乾芽莉(いぬい・めり)さん、細田さやかさん

学校や学年を超えて
集まってきた仲間たち

「おやつ持って来たからみんなで食べよ」
「わ、ラッキー」

「疲れたあ。今日入試やつてん」

口々に話しながら、東大阪の市立総合福祉センターの一室に、中学・高校生が次々と集まってきました。彼らは、ボランティアグループ「新星」のメンバーで、今日は月に2回の定例会の日なのです。

「新星」は、1983(昭和58)年に、当時の中・高生たちが結成したボランティアグループ。夏休みに開催された身体障害者との交流ワークキャンプにボランティアとして参加した生徒たちが「これからも継続して活動を」と始めたものです。以来20年、世代交代をくり返し、「新星」は今も中・高生主体のボランティアグループとして、活発に活動を続けています。

現在のメンバー数は15名で、年代は中1〜高3。学校や部活動との調整も必要のため、以前はワークキャンプをはじめ身体障害者との交流や施設のイベント手伝いなど、土日や休日が中心でした。

ところが、メンバーの中から「みんなで分担すれば平日だって動けるやん。もっとイロイロしようよ」という提案があり、1年ほど前から、全員でローテーションを組んで、平日も含めた継続的なボランティアに取り組みようになりました。

そのひとつが犬の散歩。これは病気で体調が思わしくない方に代わって、毎夕、飼犬を散歩に連れて行くというものです。「ボランティアしてる人は多いけど、犬の散歩とか言、『そんなんボラン

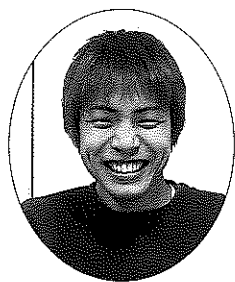
ティアがするの?」って感じの人が多いんちゃう?」「それに毎日やしな」「でも私らは楽しかったら全然OKやから」と言うメンバーたち。話し口調や言葉遣いはいまどきの高校生そのものですが、その内容を聞いてみると、彼らの着眼点や洞察の鋭さに驚かされます。

ボラセンを「溜まり場」に
楽しく元気に活動中!

新星に入ったきっかけは皆それぞれ。ワークキャンプに参加してその続きに、という子もいれば、手話教室で新星メンバーに出会った子も。他にも、お母さんの紹介で、部活の友達に誘われて...などなど。パターンはさまざまですが、「何かやってみたい」「おもしろそう」という、素直な気持ちで始めたことに変わりはありません。

新星と関わるの深いボランティアコーディネーターの大西義人さんは、「みんな極めて自然体で楽しんでます。」「してあげている」という気持ちは全くなく(相手と)対等に、しかし強い責任感を持って接している。なかなかできることではないでしょう」と話します。

ボランティアをする人と、してもらう人。大人と子ども。中学生。高校生。立場や年齢という「くくり」を取り払うことは容易ではありません。しかし、自然な気持ちで「一個の人間」としてアクションを起こし、知り合うことで、それは可能になる——それを体現するかのような彼らの活動姿勢は、これからのボランティアのあり方に、ひとつの可能性を示唆しているのではないのでしょうか。



発起人で代表の猪俣健一さん

「こんなに反響があるとは正直思っていなかったんです」と話す猪俣さん。社協にビラを置いてもらったり、ボランティアア先で知り合った人を誘うなどしてメンバーを募集したところ、「こういうグループができるのを待っていた」という参加希望者も多く、現在は高校3年生から大学4年生までの25人が活動しています。

在籍する学校も住む地域もさまざまなメンバーたち。年齢や考え方の幅が広がるというメリットがある反面、当初はメンバー同士の連絡や情報交換の手段に悩まされました。頻繁に集まることが難しいという、携帯電話全盛の時代とはいえ、20人を超えるメンバー全員に電話連絡を回すのは大変だからです。

そこでユニメイトのホームページを作成し、ネット上に連絡拠点を作ること。ボランティアの依頼情報や定例会の会議録をはじめ、誰でも自由に書き込める掲示板などを設置することで、いわばバーチャル会議室としての機能を持たせたのです。ホームページには、詳しい活動報告や企画の経過、今後の課題なども掲載し、随時更新。掲示板ではメンバーを中心に意見交換や近況報告が活発に行われるなど、インターネット時代ならではのグループ活動が展開されています。

また「グループならではの活動を」と独自の企画立案や実行に意欲的なのも特徴。依頼を受けての講座も多々ですが、4月には初の主催企画としてなみはやドームで小学生を対象とした車いすバスケの体験イベントを実施。企画力と機動力のある学生グループとして周囲の期待と信頼も高まりつつあるようです。

「やりたい」の気持ちを大切に どんどん新しいことに挑戦

「考えや体験を共有できる
若者の活動拠点を」

ホームページを活用して
密な連絡と交流を図る

今年1月、住吉区の中学校で車いす講習会を開催。車いすの扱いを説明した後、車いすで町へ。左がユニメイトメンバーの竹中望さん



大阪市住吉区の依羅（よさみ）小学校で5年生を対象とした福祉の授業に協力（昨年11月）。左がユニメイトメンバーの開高晴恵さん



学生ボランティアグループ 「ユニメイト」

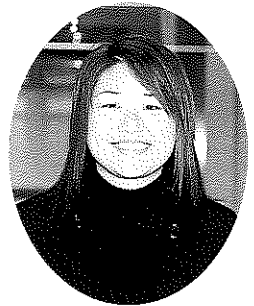
●連絡先

ユニメイト ホームページアドレス
<http://sakai.tripod.co.jp/>

堺市社会福祉協議会
ボランティア情報センター
堺市南瓦町2-1
TEL (072) 232-5420
FAX (072) 221-7409



毎月第4木曜に定例会を実施。
ボランティア募集や企画の打ち合わせなどを行います



いまは情報処理関係の仕事に就いているという山田啓子さん

手作りポスターを制作し、
枚方市内の高校・大学に掲示

枚方市で活動する「ひよこの会」は、6年前、当時高校2年生だった山田啓子さん(23歳)ら若い人たちの熱い想いを、枚方市ボランティアセンターがバックアップして立ち上がったボランティアサークルです。

最初は、メンバーを集める土台づくりから始まりました。社協ボランティアセンターに登録していた学生や、その時期に行われた「夏の体験プログラム」に参加申込した10代の若い人たちに声をかけて、仲間を勧誘。そして平成8年7月21日、枚方市ボランティアセンターで最初のミーティングが開かれ(参加者8名)、会の名称も決定し、ここに高校生を主体とした「ひよこの会」が誕生しました。

まず、会ではメンバー募集のポスター作りに取り組み、それを高校・大学・専門学校へ持参して、協力を呼びかけました。また、自分たちの活動先の開拓にも力を注ぎました。

そんな中、社会人として当初から活動を支えてきた水本さんはコンピュータ関連の仕事に就いていたこともあって、「パソコンでの情報提供」を提案。インターネットで会の活動を紹介するだけで

高校生パワーが作り上げた ボランティアサークル

なく、WEB上で10代・20代の若い人たちに会への参加を積極的に呼びかけたところ、たくさんの反応が寄せられたといえます。

会の活動は、まず毎月の定例会でボランティアを募集している「ニード」をまとめて報告することから始まります。メンバーはその中から自分が興味を持ったものの、自分にできそうなものを選び、活動内容を把握した上で個々人で決定。あとは当日、それぞれの現場に赴いて活動するというのが「ニード」には毎月の定例のものもあれば、その月だけの単発のものもあります。

人気を集めるのは、保育園での保育士さんの手伝いや、高齢者福祉施設でのお年寄りの話し相手などの活動。「将来は保育士になりたい、高齢者の福祉施設で働きたいという仲間も中にはいて、そんな人たちが(福祉系の)大学に入る前に現場を経験しておきたい」ということもあるようです」と山田さん。

高校生・大学生の若い仲間をもつ
と増やしたい

そうした活動を続けていくうち、やがてメンバーは次々に社会人になっていきまし。今では、立ち上げ当初の中心メ

ンバーのほとんどが社会人。「ですから、高校生・大学生の若い仲間をもっと増やしていくことで、ニードの受け入れを柔軟・円滑にしていけることが課題です」と現リーダーの山上さん。

事実、現在のメンバー構成は社会人が20〜30人いるのに対し、高校生と大学生はそれぞれ15人ほど。「それでも悪くはないんです。この会が存続してこれたのは、一人ひとりのメンバーの団結があったから。ただ、平日のプログラムについては、せっかくニードを頂いても、社会人は仕事があるので、どうしても動きにくい。けれど学生は、私たちではカバーしきれない色々な部分を補ってくれます。以前、私たちができた多様なニードに対応できるようにするためにも、もっと多くの学生さんの参加が必要不可欠なんです」。

そして「ボランティアは、人に何かを与える、してあげる」というより、自分が「何か」をもらうもの。その「何か」は一概に言えませんが、それがあるから続けていけるのだと思います」とメンバーの多くは語ります。

ときには、ボーリングやスキーで仲間との親睦を図っているという「ひよこの会」。枚方に根づいた、元気な若者たちのボランティアサークルです。



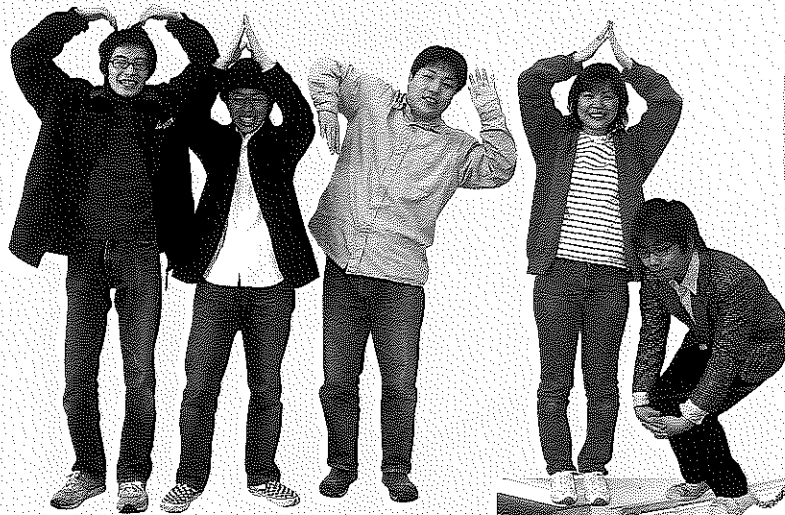
初めての参加者も混じるこの日の定例会は、古くからのメンバーである水本治さん(28歳)が司会を担当

ひよこの会

●連絡先
枚方市社会福祉協議会
枚方市ボランティアセンター
枚方市新町2-1-35 ラポールひらかた内
TEL (072)841-0181
FAX (072)841-0182

定例会 毎月第3日曜日 14:30 ~
ラポールひらかた
ミーティングルーム3

HP <http://www.geocities.jp/yukikazedd/>



手と身体で「MANA. (マナ)」の文字を作る5人のメンバー。
右から濱田桂一さん、瀬澤由紀さん、上浦英輝さん、
村上哲也さん、東亮一さん

関西福祉科学大学 ボランティアサークル 「マナの会」

●連絡先
柏原市社会福祉協議会
ボランティア市民活動センター
柏原市大県4-15-35
TEL・FAX (0729) 72-6760

総勢40名の学生サークル 組織力と機動力で地域に貢献



学生らしい発想で、季節のイベントを盛り上げるメンバーたち



福祉の大学ならは
意識の高い学生たちが集まって

柏原市にある関西福祉科学大学は、その名の通り臨床福祉を専門とする大学です。当然、福祉やボランティアに対する学生たちの関心は高く、学内には2つのボランティアサークルがあり、それぞれ精力的な活動を展開しています。

そのひとつが「マナの会」。柏原市社会福祉協議会の登録ボランティアグループでもあり、メンバーは約40名。柏原市のボランティア市民活動センターを通して、あるいは直接依頼を受けて、柏原と八尾の施設などでボランティアをしています。継続的な援助のほか、バザーやキャンプを手伝ったり、レクリエーションをしたり、季節のイベントを開催したりといった企画ものも得意とするところ。また、児童養護施設の中、高校生に勉強を教えるなど、大学生ならではのものもあります。

「大学のボランティアサークルだから、始めは趣味のサークルと同じ感覚。ちょっと興味のある人が気軽に始められるというメリットがあります」と、代表の濱田桂一さん(2年生)は言います。使命感や強い意志をもってなくてもいい。福祉の大学に入ったんだから、友だちが欲しいから、ヒマだから……。どんな理由でもいいから、とりあえず始めてみる。そして、実際にボランティア活動をするなかで、考え、育っていく。マナの会は、そういうことのできる「環境」であり、「機会」でもあるのです。

「ボランティアとは、福祉とは」
活動を通じて考え続ける学生たち

「最初とはにかく必死になってボランティアしてた。で、先輩の話を聞いたり授業で勉強したりして、だんだん自分の考えができてきた、っていう感じ」と話すのは副代表の瀬澤由紀さん(同)。多少の個人差はあるものの、入学当初のほぼ白紙の状態から、わずか1〜2年の間に、学生たちはボランティア活動を通して驚くほど多くのものを吸収し、自分なりの福祉観、ボランティア観を養っています。

また、彼らにとって、福祉の仕事の実情を知ること、将来の進路を考えるうえでも大きな意味があります。実際に現場で働く人の姿を見て、不安や迷いも生じます。「でも、かえって覚悟ができた。やっぱり自分はこれがしたいんだ、って」と、村上哲也さん(同)。他にも、「福祉を仕事にすることの責任の重さを痛感した」(東亮一さん/同)、「運営する側の苦労が分かるようになった」(上浦英輝さん/同)など、自分たちの将来を見据えた真剣な声も多々。

マナの会をよく知る前川阿紀子(柏原市ボランティア市民活動センター)所長は、「毎年、最初は頼りなかった新メンバーがどんどん成長していく姿を、目を見張る思いで見えています」と話します。「責任感が強くて機動力がありますから、頼りにしている依頼先も多いですよ」とも。若いエネルギーとパワーは、ボランティア界に新しい風を運んでくれる存在となってくれることでしょう。

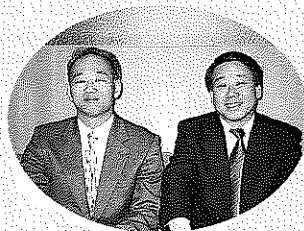


生徒会や各クラブも活躍しました

東大阪市立日新高等学校 ボランティアバンク

●連絡先
東大阪市立日新高等学校
東大阪市日下町7-9-11
TEL (0729) 85-5551
FAX (0729) 85-3276

生徒の自発性を重視する 登録制ボランティア支援制度



西川夕起夫校長(右)と段上修二教頭(左)

常時ボランティア依頼を受付中

一般的な交流やお手伝いのほか、運動・文化の各部活動、コンピュータ、英語などの技能を活かした活動も可能。詳細は同校へご相談ください。



好評だった昨年の「さくらまつり」。地域の高齢者を学校に招いて校内や校庭で自慢の桜を楽しんでもらいました

当初の期待を上回る 生徒のボランティア意欲

東大阪市立日新高等学校は、生駒山の北西に位置し、生徒数は約920名。平成14年4月から「日新高校ボランティアバンク」というボランティア登録制度をスタートさせ、生徒のボランティア活動を支援しています。

同校では、これまでも夏休みや春休みの長期休暇中の活動を中心に、随時生徒たちにボランティアの呼びかけを行っていましたが、「知る機会と情報提供をすることで、潜在的な意欲を具体的な活動に」つなげようということから、この制度が生まれました。福祉、環境、国際、地域など7分野38項目の中から興味のあるものを選び、活動できる曜日や時間、頻度などと共に自己申告するというもので、登録は任意。

もっとも、「人材バンク形式をとっていますが、現状では各教室への掲示告知がほとんどなんです」と、西川夕起夫校長は言います。というのも、生徒の関心が予想以上で、依頼を上回る応募が集まることが多いからです。

依頼先との調整にあたっている段上修二教頭も、「正直、驚きました。生徒からここまでのレスポンスがあるとは予測していませんでしたので。定員10人の募集に20人以上が希望してくることもあり」と話します。

より多彩な活動に向けて

これまでの活動は高齢者福祉施設や幼稚園・保育園のほかに、広いや交流が大半で

すが、今後はより幅広い分野に活動を広げていきたいと同校では考えています。

「特に環境保全や高校生ならではの趣味や特技を活かすことのできる分野を積極的に開拓していきたい」と意欲的な西川校長。すでに、ブラスバンド部や茶道部をはじめ、各クラブと連携した交流活動が盛んですが、英語やパソコンなどのスキルを活かすなど、さまざまな可能性が考えられます。

活動に参加した生徒からは、「ボランティアがこんなに楽しいなんて思ってもいなかった」「普段接することのないお年寄りと会えて、大変だったけどいい経験だった」「最初は何を話せばいいかわからず困った。次はもっと話せる話題をつくらなくちゃ」と「将来保育士になりたいので、どんな仕事かが学べてよかった」などさまざまな感想が。その内容からは、生徒一人ひとりが、それぞれの感受性でさまざまなことを感じ、考え、何かを吸収していることがうかがえます。

西川校長は「子どもたちは、我々大人が思っている以上に、動きたがっている。のではないかと思います」と、また段上教頭も「ボランティアについても、奉仕や自己犠牲としてではなく、興味をもって取り組める何か」として見ている。自分にとっておもしろいからする。だから無理がない。驚くほど自然に、自分の生活に取り込んでいますよ」と、生徒のボランティア観を見えています。

自発的で好奇心旺盛。彼らは、何かに向かおうとして湧き上がってくる意欲を注ぐべき対象を探していたのかもしれない。

多様な活動プログラムを組み ボランティア初心者の後押し

活動分野を限定せず
ボランティアの登竜門に

主に守口市内在住の学生や社会人など
約20人で活動する「ピースリーダー守口」。

多くのボランティア団体がテーマを絞って活動しているなかで、同会は自分たちのグループを「ボランティア登竜門」と位置づけています。ボランティア初心者にその面白さを知ってもらおうと、多彩なプログラムを組んで活動するという、ちよつとユニークな団体です。

去年1年間をみても、自閉症の子どもと遊ぶ保育ボランティア、特別養護老人ホームでの模擬店の手伝い、守口市民まつりでの車いす体験ボランティア、「未来っ子カーニバル」の屋台担当など、さまざまな取り組みがされてきました。

「ボランティア初心者が活動しやすいメニューを用意し、きつかけづくりをしていくのが私たちの会の目的。そのなかからそれぞれの興味にしたがつて、自分たちでプログラムを組み、自ら活動できるようにになればと思っています」と、世話人の山道俊一さん（43歳）。

同会は当初、守口青年会議所がボランティア活動を通じて、環境問題や国際理解、そして地域社会との交流を深めるなかで、まちづくりの若きリーダーを育成しようという目的でスタートしたもの。

現在は青年会議所から独立し、守口市社会福祉協議会の登録団体として活動しています。

守口市内の車いすマップづくりが
今年のテーマ

取材に伺ったのは、ちよつど月に1回開かれているピースリーダー会議の日。学生たちと彼らをサポートする社会人（世話人）が集まって、にぎやかに企画会議が行われていました。

活動を始めたきっかけはみんなさまざまですが、それぞれに「収穫」を得て、ボランティアの楽しさを知ったといいます。大学4年生の山田倫也さんは、「引こ込み思案で人見知りする性格を何とかしたい」と参加するうちに、いまではたくさんの人と気軽に話せるようになったといいます。また、「学校だけだと行動



守口社協主催ボランティアフェスティバル

ピースリーダー守口

●連絡先
ピースリーダー守口
TEL (06) 6902-2457 (世話人 山道俊一
学生リーダー 平岡典子
Eメール peace3net@yahoo.co.jp

範囲が狭いけど、ボランティアをすることで、普段は関われない人と交流ができ、視野が広がった」と語るのは、高校3年生の梶山碧さん。

さらに、高校2年生の水谷あやかさんは、「以前、障害者を対象にした別のボランティア団体にいたのですが、老人介護の活動をしたくて、この会に参加しました。自分でメニューを組んで活動していきたい」と意欲的です。

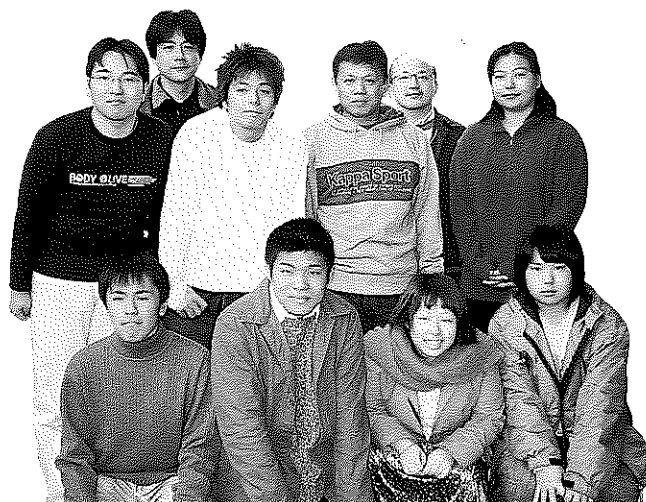
今年度の中心的な活動は、守口市内の車いすマップづくり。中高生などにも広く参加を呼びかけ、駅や各施設の障害者用トイレの有無などを調査する予定です。また、単発のイベントの手伝い等の活動も盛りだくさんに企画中だとか。

ボランティア初心者を応援するピースリーダー守口。「みんなボランティアをやってみたいという気持ちはあると思うので、ちよつとその背中を押して、活動の入り口に立たせてあげよう。そんな役割をこれからも担っていきたい」と、世話人のひとりである竹中慎一さん（43歳）が語るように、今後も幅広い活動で、多くの若者をボランティアの世界にいきなっていくことでしょう。

<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Gaien/2178/>



ファミリープラザのイベントに参加（守口青少年センター）





「地雷博物館」は、カンボジア人アキー・ラー氏（推定30歳）が自宅を開放して地雷や関連資料を展示しているもの



「農村部と都市の経済格差が問題」と松岡さん。経済学を学ぶ学生ならではの観点でカンボジア問題を見ています

「戦争」という現実を
目の前に突きつけられて

世界遺産アンコール・ワットで有名な、カンボジアの地方都市シエムレアポ。その郊外にある「地雷博物館」で、ボランティアをしている日本人学生がいました。松岡秀司さん、23歳。関西大学大学院で経済学を学びつつ、地雷撤去と啓発、そして被害者支援活動が続けています。

22歳のとき、アンコール遺跡群を見ようとカンボジアを旅行した際、何の気なしにこの地雷博物館を訪れたのがきっかけでした。「入り口にいきなりホンモノの地雷がゴロゴロ転がってて、それがすごい衝撃でした」。

そのとき、呆然としていた松岡さんに、木の实を手渡そうとしてくれている子どもがいました。「ありがとう」と言おうとして目をやった瞬間、その子に足がな

単身カンボジアに乗り込み 地雷問題に取り組む大学院生

いことに気づき、松岡さんは再び言葉を失ったと言います。

もちろん、地雷は全て処理済の安全な展示品。また旅行中に見た観光地の様子は驚くほど豊かで、町には日本車やバイクがあふれています。「でも違う。やっぱりこの国の戦争はずっと続いていたんだ」と、強いショックを受けた松岡さん。「僕にもできることがあるはず」という気持ちに駆りたてられ、早速行動を始めたのでした。

反対する人、応援してくれる人

「最初は家族にも大反対されたし、周囲の反応もわりと冷たかったですね。もちろん、僕自身にも迷いがなかったといえは嘘になる。でもね」と松岡さんは話します。「僕が投げ出すのは簡単なことだけど、彼らは投げ出したくても投げ出すことができないんですよ」。

授業の合間をぬってカンボジアを訪れては、地雷博物館の館長アキー・ラー氏と共にジャングルへ入って地雷撤去を手伝ったり、博物館を訪れる日本人に地雷について説明をしたり、被害者の生活を援助したり……。

また、日本ではそんなカンボジアの現状について一人でも多くの人に知ってもらおう、小・中学校を訪れて子どもたち



膨大な数と種類の処理済地雷を、館内いたるところで見ることができます

ちに話をすることもあります。ある小学校では、児童たちがその後もカンボジアについて勉強を続け、「農村の子どもたちに衣類を送ろう」という発案が。子どもたちの声から始まったその運動は、地域の住民たちも巻き込み、現在も継続中だといいます。

「博物館にあるアキー・ラーさんの自伝の日本語版も、東京の高校生たちが翻訳をかって出てくれてできあがったもの。そんなふうに、人から人へと活動が広がっていくのを見ると、この活動をやってよかったとしみじみ思います」。

必死に動く人の姿が、次のアクションを生む。そんな人の連鎖で、この国が正しい方向に向かう手伝いができれば……と松岡さんは考えています。「ほんのちよつとでもいい。一人でも多くの人が、少しでも関心を持って、考えて、そして何でもいからその人にできることをするだけがいい。結局は、それが大きな力になっていくんです」。

左端がアキー・ラー氏。ポル・ポト時代や度重なる戦争を生き抜き、国連平和維持軍を経て、現在は私費で地雷や不発弾の撤去活動中。地雷で手足を失い、ここで一緒に暮らしている子どもたちもいます



関西大学大学院経済学研究科

松岡秀司さん
(23歳)

●連絡先

E-mail shuzou0307@yahoo.co.jp

大阪府内で活動する、高校生・大学生主体のボランティアグループ

No	団体名	活動内容	主な活動場所	会員数
1	日新高校ボランティアバンク	種類に応じて(別紙)ボランティア活動があればその都度、生徒へ広報し活動希望者を募る。	施設等へ	約920
2	東大阪大学 東大阪大学短期大学部 ボランティアクラブ	依頼先施設の行事他	施設他	10~20
3	城東工業高校生徒会+有志	若園園主催バザー支援活動	寺嶋公園	10
4	樟蔭高校ボランティアクラブ	手話学習。いろいろなボランティア活動への参加	不定	3
5	大阪樟蔭女子大学点字部 「ひまわり」	点字カレンダー・さわる絵本づくり・点訳絵本づくり・車イス介護	樟蔭女子大学	5
6	大阪樟蔭女子大学 手話サークル「くすの木」	手話学習会。ろうあ学生との交流会	樟蔭女子大学	5
7	近畿大学分学生会 「社会福祉すみれ会」	学内での点字歩行補助講習会。さわる絵本作り。盲人福祉に関する調査・研究。サマーキャンプ・走ろう歌おう運動会	近畿大学クラブセンター	19
8	近畿大学赤十字奉仕団	大学内での献血活動。救急法。施設訪問	近畿大学	20
9	大阪赤十字近畿大学 学生輸送奉仕団	災害地などへの緊急時の物資の輸送	近畿大学	
10	ボランティアサークルbeliebe	障害者サークルの補助。留学生・他大学・在日外国人・小中高生との交流。	近畿大学	
11	かみしばい会	紙芝居・パネルシアターの作成。手遊び折り紙工作遊び。図書館・病院・公民館・保育所などで紙芝居会を開く(大学生がリーダーで大人も混じっている)。	旭町図書館・花園図書館	20
12	新星	障害児の外出の介助・リハビリ手伝い。老人ホーム施設の行事・ボランティアセンターの行事の手伝い。	ボランティアセンター	15
13	四天王寺国際仏教大学BBS	保護観察所等と連携を取りながら、保護観察中の少年と交流。青少年・児童・障害者等の支援活動	四天王寺国際仏教大学内・羽曳野市内・大阪府内	61
14	羽曳野 マナ	活動分野は問わず、障害児者・高齢者・児童の支援活動	羽曳野市内全域(定例会はボランティアセンター)	8
15	IBUボランティアクラブ	知的障害者の方との交流をはじめ、児童支援も活動とする。	四天王寺国際仏教大学内・羽曳野市内・大阪府内	56
16	学生ボランティアグループ 「マナ」	イベントの運営協力(柏原・藤井寺・羽曳野にも登録)	市内福祉施設、他	17
17	梅香女子大学 ボランティアサークルたけのこ	ジャンル・内容は問わず		31
18	ボランティアグループつばみ	施設・イベント・障害児の手伝い。小中学校でのボランティア体験学習の手伝い。他	市内施設・個人宅等	21
19	ピースリーダー守口	守口市福祉マップ作り。市民祭り・青少年センター行事・老人ホーム等施設手伝い。	守口市青少年センター	17
20	大阪府立大学 手話サークル聖飛夢	学園祭にて、手話コーラス・手話劇の公演	大阪府立大学社会福祉学部	23
21	大阪府立大学 ボランティアサークルむうみん	知的障害者外出介助・心身障害者のデイサービス・肢体不自由児とのレクリエーション。行事・イベントの手伝い。	長居スポーツセンター・堺南通所授産所	83
22	大阪府立大学 「小さなポケット」	料理教室。福祉施設への援助。	青少年の町事務局内料理教室・集合室、他	9
23	大阪府立大学 ボランティアグループ 「ユニメイト」	堺市を中心に(大阪市内などでも)活動している、学生中心のグループ。高・大学の枠を超えて、ボランティア活動を始めたいと思っている人、その他福祉に興味・感心がある人など、いろんな人が気軽に集える場です。堺市に住んでいる人の他、近辺の高・大学に通っている方、それ以外にもいろんな所からメンバーが参加しています。	例会は堺市市民活動の広場。活動は依頼により。	40
24	大阪府立大学ボランティア 「ユートピア」		児童養護施設・東光学園・白鷺園	17

※現時点で把握している市町村社会福祉協議会のボランティアセンターとつながりの深い青少年のボランティアグループは以上ですが、まだ他にも地域や学校で活躍するボランティアグループもたくさんあると思われます。ご存知の方がおられましたら、ぜひ、大阪府ボランティア・市民活動センターへご一報ください。

学生ボランティア支援事業「助成金制度」の紹介

この事業は島本広和氏のご寄付により、学生ボランティアの振興のため1997年に創設された助成金制度です。大学・短大・高専・専門学校・高校・中学などのボランティアグループを対象とするもので、助成額は30,000円とし1年度1回です。詳しくは大阪府ボランティア・市民活動センターへお問合せください。以下は14年度に助成を受けた団体のリストです（順不同）。

No	学校名	グループ名	構成員	主な活動内容
1	河南町立中学校	バリアフリーネット河南	16	施設の要請に応じ、車いすの修理・整備、廃棄された車いすを修理してアジアの障害者に送る、駅や公共施設のバリアフリー調査、福祉施設でのボランティア
2	藤井寺市立道明寺中学校	道中BAG	174	美化・清掃、老人介護の手伝い、バリアフリー活動、危険なもの・場所の注意喚起・修理、緑化、手作りの品物を送る活動、調査・宣伝活動
3	寝屋川市立第三中学校	フラワープレゼンター	146	ひとり暮らし老人へ誕生日花束プレゼント、障害児とのふれあいハイキング、校区福祉委員会主催の福祉まつりへ参加（バレーボールの車いす・プラカード担当など）
4	箕面市立第六中学校	メンタルフレンズ	13	毎週総合学習の時間に6人が参加し生徒を援助、不登校（別室登校）生徒への学習援助、運動会への参加・援助
5	大阪府立堺東高等学校	ボランティア同好会 シャキシャキ	28	ボランティアセミナー開催、養護学校との交流、地域の老人会・福祉まつりのボランティア、施設訪問と学校行事への招待、サマーボランティアを全校に呼びかけ
6	堺女子高等学校	インターアクトクラブ	16	幼稚園訪問（ハンドベル・紙芝居）、特養老人ホーム訪問、献血呼びかけ、在日外国人との交流、「藍は地球を救う」のボランティア
7	大阪府立藤井寺高等学校	ボランティア部 交流ボランティア協会	85	児童施設の行事に参加、養護学校の行事に参加、震災後からの援助団体のハイキングに参加し、子どもたちの援助
8	大阪教育大学	どんぐり	46	月1回、柏原市・藤井寺市に住む障害者の子どもやそのきょうだいと交流
9	大阪経済大学	社会福祉研究会	24	肢体不自由者のサークルの定例会・活動に参加、ワークキャンプ、施設訪問、作業所ネットワークのイベント企画・運営に参加
10	大阪工業大学	大阪工業大学文化会 ボランティア教育研究会	17	学内清掃、学内手話学習会、大学祭でフリーマーケット、旭区障害児たちと交流、自立生活支援センターと交流、八尾市でのコンサート、施設の福祉まつり手伝い
11	大阪産業大学	環境ボランティアサークル ecoちゃ	50	環境フォーラムでケナフ製品の展示とアンケート調査、海水浴場で海辺の清掃活動
12	大阪府立大学	学生ボランティアグループ ユニメイト	18	支援費制度説明会、フォーラム参加者のための保育、外国人との交流イベントでのテント張りや運搬、堺ふれあい祭りのスタッフ
13	追手門学院大学	社会福祉部	13	月・木・土、放課後児童に勉強を教える、福祉まつり
14	追手門学院大学	児童研究会	24	茨木市内の公立保育所7・私立保育園1を訪問
15	関西大学	関西大学点訳 ボランティアサークルSTEP	25	生協食堂への点訳メニュー設置・更新、学内で点字講習会・啓発のための講演会、学内バリアフリー化、点訳絵本作成、視覚障害者支援団体の活動に参加、朗読依頼の対外的募集
16	大阪城南女子短期大学	ボランティアサークル向日葵	11	老健施設・特養老人ホームで活動
17	四條畷学園短期大学	たんぽぽ	19	土曜日（月1回）に乳児院訪問（ベープサート・大型絵本・ゲームなど）、障害者施設の行事に参加
18	南海福祉専門学校	ボランティア部	21	高石市社協給食サービス（月1回）、障害者を訪問し交流、



大阪府市町村ボランティア連絡会 北摂ブロック交流会



平成14年度2回目の交流会が、高槻市の現代劇場(市民会館の愛称)で開催され、早春の肌寒い小雨まじりのお天気のなか、各市ボラ連・担当職員など、総勢65名が参加しました。

北摂

テーマは「これから ボランティア活動と 連絡会の役割」

北摂ブロック交流会

北摂のボランティアが交流するようになって、高槻市では3回目となり、いつも堅い内容が多いという声が聞かれましたが、今回も第一部・第二部の構成で、より多くの方々の交流と研修を目指したものにしました。

した。

第一部の全体会では、大阪府立大の藤井講師の司会で、なごやかで楽しい内容になりました。豊中市の山口ボラ連副会長から、ボランティア活動推進センター「ぷらっと」を拠点にした活動の紹介、池田市の高橋ボラ連会長は、ボランティア意識調査の報告、池田市公益活動促進協議会の設置に関連して、NPOと連絡会の連携について、高槻市の吉田会長からは、ボランティアの高齢化、有償・無償、市民活動の活発化に伴う活動拠点、財源などの課題、さらに

河北

朗読ボランティアグループ 「ゆりかご」

門真市ボランティアセンター

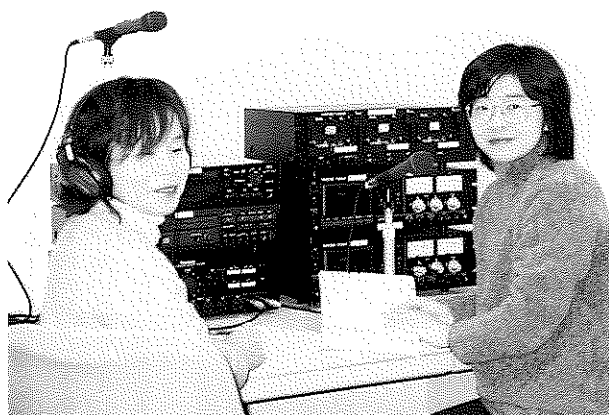
朗読ボランティアグループ「ゆりかご」では、市の障害福祉課が主催の朗読奉仕員養成講座の修了生を中心に、現在18名の会員で、本や資料の音声訳をテープに録音するボランティア活動を行なっています。門真市に平成12年7月に新しくできた保健福祉センターの録音室で、市民の方から依頼された小説・童話・家電の取扱説明書などの音声訳や、市の広報車の録音をしたり、ボランティア交流会で朗読の発表をす

新たに高槻市が設置した市民公益活動サポートセンターとの連携などについて問題提起が行われるなど、三者とも第二部のテーマに関連する報告になりました。

第二部では、①小地域ネットワーク活動とボランティア活動、②支援費制度とボランティア活動、③NPO活動とボランティア活動、④担当職員とボランティア活動の4つのグループに分かれて交流が行われました。①の課題は、ボラ連に所属のグループの活動

が、小地域ネットワーク活動とうまく連携されていない地域がまだ多いという点、②では、まだスタートしていないのでよくわからないが、「地方自治体が弾力的に事業展開を行うことができる」という点で、各市により事業内容に差ができるのではないかとの懸念も聞かれました。③では、NPO法人とボランティアグループの違いや役割などについて、まだ情報発信が十分でないことが感じられました。





■問い合わせ先
門真市ボランティアセンター
(門真市保健福祉センター内)
TEL 06・6902・6453

るなどしています。
録音テープは目の不自由な方、老眼で字が読みにくい方、本を読むのはおっくうだけど耳で聞いてみたいと思われる方など、どなたでもご利用いただけます。
また、「ゆりかご」では、毎月第一水曜日の午前10時から12時まで、同じ保健福祉センターのボランティアルームで朗読の勉強会を開いています。朗読に興味のある方や音声訳を希望される方は、門真市ボランティアセンターまで、ぜひお問い合わせください。
中尾幸見



河南ブロックの交流会は二巡めに入り、3月7日、LICC(リック)はびきの(生活・文化・情報などで市民が交流できる素敵な施設)で、羽曳野ボラ連の出迎えを受けました。平成10年にも、立派な総合福祉センターでの意見交換と地域リハビリセンターでの体験などをさせてもらったのですが、今回、午前中はそのLICC館長の笠井さ



LICCはびきので再スタート

河南ブロック交流会

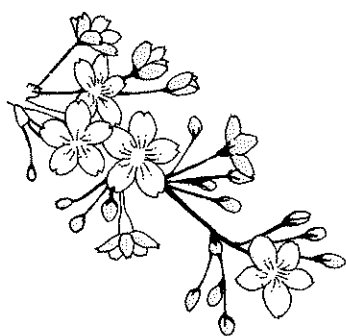


んの講演で、「日本文化云々」という演題や歴史資料のレジュメを離れての軽妙な日本人論には思わず笑いを誘われましたし、さりげなく色々な事業に市民ボランティアの協力があることに



も触れられ、いい出だしになりました。LICC自体が会社方式で運営されていると後で聞きましたが、市民の活力を引き出せる雰囲気があることは、これからのボランティア活動にも大きな力となることでしょう。

午後は、参加者40名あまりを4つに分けたグループ討論で、せんだって実施した河南ブロック状況調査にあったボランティアの高齢化や男性ボラの少数問題、活動助成金の問題、全国ボランティアフェスティバルへの参加などを討論しました。時間が足りず、深めることはできませんでしたが、毎回、継続して知恵を出し合うべき課題ですから、今後の交流会にも期待したいと思います。お土産として作業所の美味



しいクッキーと、いちじくのジャム、そして、きれいな音色のサヌカイト楽器の演奏を取めたCDをいただきました。広報部会河南ブロック担当・宮田信直



2月15日、岸和田市立総合センターにおいて泉州ブロックの交流会が開催されました。岸和田市ボランティアセンターの現在の登録者数は、グループ29団体(約1000名)、個人160名、NPO登録4団体との報告でした。その後、第26回ボランティアサロンを見学。サロンを始めた動機の一つに、各々のボランティア活動は活発である

泉州

ボランティアする人、
される人の声を聞いて

泉州ブロック交流会

が横の連携が不十分。まずはお互いの顔を知ることから始めましょう。という掛け声で始まったそうです。中学生のボランティアクラブの紹介(中学生でもできる範囲でのボランティアをしましょうとのこと)、ブナの植樹やブナ林の調査等を行っている「ブナ愛樹クラブ」の活動紹介などがあり、岸和田筆記通訳サークル「はばたき」には、その場で要約筆記通訳を実際にデモしていただきました。また個人ボランティアの谷口さんのマジックもあり、ゲストスピーカーの視覚障害者の方が「朗読ボランティアのテープをいつも聞いています。朗読テープは人間の精神に充実感や灯を与えてくれます」との印象深いお話もありました。

今回のサロンでは、ボランティアをする人、される人の生の声を聞くことができ、有意義なひとときを過ごすことができたと思います。最後に、各市町村の活動報告と活発な意見交換の場が持たれました。

アイ・あいロビー運営委員長・東 節子



Hello! ボランティアセンター

藤井寺市社会福祉協議会 ボランティアセンター

藤井寺市北岡1-2-8
TEL 0729-38-8220
FAX 0729-38-8221

福祉まつりではボランティア連絡会が大活躍

藤井寺市役所の北向かい、市民総合会館に隣接する福祉会館（ふれあいセンター）に入っているのが藤井寺市ボランティアセンター。広々とした会館1階ロビーはコミュニケーションスペースとして市民に開放され、ボランティアグループが打ち合わせなどに利用することも少なくありません。

センターでは現在、11の団体と130名のボランティアが登録していますが、人口（6万7000人）から考えれば、その数は決して少なくないと言えます。

そしてこの特徴は、個人・団体を問わず、実に多彩な演芸ボランティアが活躍している点。「キーボードや大正琴などのグループに加え、手品やハーモニカ、日本舞踊の個人ボランティアがおられ、施設訪問や小地域ネットワーク活動などでは大活躍していただいています」とコーディネーターの西脇三保子さん。



西脇三保子さん

その他、点字、手話、朗読、歌体操などのグループがあり、それぞれの分野で活躍しています。平成13年には「ボランティアのまちづくり」に向けて、これら11の登録団体でボランティア連絡会を結成。毎年「ふくしまつり」では市内の福祉関係団体とも手をつなぎ、また当事者の方々と一緒に「連絡会の皆さんが企画の段階から当日の会場運営まで担ってくださいます。来年度で3年めとなりますが、こうした交流を通じて横の連帯感も大きく育まれつつあります」と西脇さん。



市民に開放されたボランティアルームにはOA機器が完備しています

昨春ここに着任したばかりですが、日々のコーディネートに加え、毎月発行している情報紙「プラム」の制作、さらに最近では教育現場から総合的な学習についての相談や依頼も多く、「周りの先輩に助けをいただきながら嬉しい悲鳴をあげています」と語ります。今後の課題としては「市民の皆さんから“あったらいいな”という声を寄せていただいているホームページや、日曜大工、子育てサークルなどを立ち上げてサポートしていきたい」とのこと。そのフレッシュな感性で、藤井寺のボランティアをますます盛り上げていただきたいと思います。

泉大津市社会福祉協議会 ボランティアセンター

泉大津市東雲町9-15 市立総合福祉センター内
TEL 0725-23-1393
FAX 0725-23-1394

障害者のためのボランティア活動が中心

泉大津市役所に隣接する市立総合福祉センター内にあるボランティアセンター。現在、10グループの登録ボランティアが所属し、手話、点字、朗読、さわる絵本、筆記通訳、



小中学校の総合的な学習の時間には手話サークルなど年間30～40時間ボランティアを派遣。

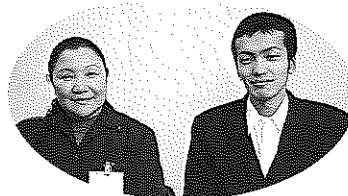
精神障害者保健福祉ボランティアなどの活動が行われています。さまざまな障害者福祉のための活動が中心になっているのが特長です。そのため、小中学校の「総合的な学習の時間」に多数のボランティアさんが活躍しています。460人の登録ボランティアのうち、160人がグループ活動に参加。各グループとも週に1回程度定例会が開かれています。

平成9年、登録ボランティアグループによる連絡会が発足。毎年、「福祉ふれあいまつり」などに参加し、朗読ボランティアが詩を朗読すると、それを手話サークルや筆記通訳サークルが連携して通訳をするといった活動で参加者に喜ばれています。また、喫茶店や模擬店も出店するなど、さまざまなイベントに揃って参加することで、グループ間の協力体制も深まってきました。

また、同センターでは年2回、「いずみおおつボランティア情報」を発行するなど、ボランティアの啓発活動にも力を入れています。「この地域はまだ昔ながらの人間関係を大切に、親戚づきあいなども盛ん。その反面、新しい人とのつながりができにくい面があるので、気軽にボランティア活動に参加して理解を深めてもらうことが目下の課題です」と、コーディネーターの笠井美恵さんは語ります。

もう一人、同センターを担当するのが、学生時代に障害児のためのボランティアサークルで活動した経験があるという、総務係の村陰嘉高さん。「ボランティアさんはみなさん経験が豊富で、教えられることが多いですね。その経験や技

術をぜひ若い世代が受け継げるよう、朗読や手話などの入門講座を開いて参加を呼びかけたい」と意欲的で、これからの活動が期待されています。



笠井美恵さんと村陰嘉高さん

ボランティア・市民活動保険のごあんない

取扱保険会社：三井住友海上火災保険株式会社

ボランティア活動中の事故に備えて ボランティア保険			
補償内容	ボランティアがボランティア活動中に、①偶然な事故によってケガをした場合の「傷害保険」、②第三者の身体や財物に損害を与えた場合の「賠償責任保険」、③ボランティア活動中に死亡し、「傷害保険」の給付対象にならない場合の「死亡見舞金」の3つの制度がセットされています。		
	損害部分	Bプラン	Cプラン（天災担保）
		死亡・後遺障害 2,445.6万円	死亡・後遺障害 1,102.4万円
		入院（1日あたり）8,700円	入院（1日あたり）5,900円
		通院（1日あたり）5,600円	通院（1日あたり）3,800円
補償金額	手術保険金／入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額		
	特定感染症 補償します		
	天災 ×		
賠償部分	対人	対人、対物共通 最高 4億円	
	対物	対人、対物共通 最高 4億円	
見舞金	死亡・本人の	死亡 30万円	死亡 30万円
掛金	ボランティア1名 年間（中途加入でも同じ）		
	500円		
加入できる人や対象となる活動	・無償であること（交通費、食代など除く）		
	・活動のための会議や、往復途上も含む		
保険有効期間	毎年4月1日から翌年3月31日まで		
	（中途加入の場合は受付日の翌日から）		

各種イベント参加者の補償に ボランティア・市民活動行事保険				
補償内容		ボランティア団体や各種の市民団体が主催する行事の参加中に、①参加者が偶然な事故によってケガをした場合の「傷害保険」と②主催者または参加者が第三者の身体や財物に損害を与えた場合の「賠償責任保険」の2つの制度がセットされています。		
補償金額	損害部分	本人のケガ参加者	I 型（宿泊なし）	II 型（宿泊あり）
			死亡	500万円
			後遺障害	15～500万円
			入院（1日あたり）	3,000円
			通院（1日あたり）	2,000円
	手術保険金／入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額			
	賠償部分	対人	1名あたり 1事故あたり	最高1億円 最高2億円
対物		1事故あたり	最高500万円	
見舞金	死亡・本人の			
掛金	I 型		II 型	
	A区分	30円	1泊2日 248円	4泊5日 328円
	B区分	128円	2泊3日 256円	5泊6日 336円
	C区分	251円	3泊4日 264円	6泊7日 344円
加入できる人や対象となる活動		ボランティア団体や市民団体が主催する行事 （スポーツ活動や自助活動も含む）		
保険有効期間		行事期間中 （開催1週間前までに受付が必要）		

各種NPO団体等の活動に 非営利・有償活動団体保険						
補償内容		ボランティア保険の対象外で、有償活動を行う団体が活動中に、①スタッフが偶然な事故によってケガをした場合の「傷害保険」と②利用者などの身体や財物に損害を与えた場合の「賠償責任保険」がセットされています。				
補償金額	損害部分	本人のケガ参加者	Aプラン		Bプラン	
			死亡 202万円		死亡 500万円	
			後遺障害 6～202万円		後遺障害 15～500万円	
			入院（1日あたり）3,000円			
			通院（1日あたり）2,000円			
	手術保険金／入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額					
	賠償部分	対人	1名あたり 1億円 1事故あたり 2億円		1億円 2億円	
対物		500万円				
見舞金	死亡・本人の					
掛金	Aプラン		Bプラン			
	4,900円		6,300円			
加入できる人や対象となる活動		営利目的ではないが利用者から実費を超える報酬を得ている活動、団体				
保険有効期間		毎年4月1日から翌年4月1日まで (中途加入者は翌月15日～)				

移送サービス活動に 移送中事故傷害保険						
補償内容		移送サービス事業の活動中に、車輛に搭乗中の加入者や利用者ケガをした場合、実施主体の責任の有無に関係なく補償します。				
補償金額	損害部分	本人のケガ参加者	I 型（車輛特定）	II 型（車輛不特定）		
			死亡	266.1万円	死亡	192.4万円
			後遺障害	7.9～266.1万円	後遺障害	5.7～192.4万円
			入院（1日あたり）	3,000円		
			通院（1日あたり）	2,000円		
			手術保険金／入院保険金日額に手術の種類に応じた倍率を乗じた額			
	賠償部分	対人				
		対物				
	見舞金	死亡	本人の			
	掛金	I 型		II 型		
2,000円 （車定員1名あたり）		2,000円 （記名利用者1名あたり）				
加入できる人や対象となる活動		移送サービスを実施するサービス実施主体の運転者、同乗のスタッフがその利用者				
保険有効期間		毎年4月1日から翌年4月1日まで （中途加入者は翌月15日～）				

市町村の社会福祉協議会へ保険料とともに申し込みください



三井住友海上火災保険株式会社

ホームページ www.ms-ins.com カスタマーセンター ☎ 0120-63-2277

携帯電話・PHSからはTEL.03-3615-3111 受付時間 平日9:15～20:00 土日祝日9:15～17:00

各種損害保険・生命保険取扱 島本保険事務所

〒541-0054 大阪市中央区南本町3丁目5番14号 有楽ビル3階

TEL.06-6252-4519 FAX.06-6245-4686